

国語科『言語文化』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	1	単位数	2	授業形態	一斉			
教科書 (出版社)	新 言語文化 (三省堂)		副教材等 (出版社)	新言語文化 学習課題ノート(三省堂) ビジュアルカラー国語便覧 改訂版 (大修館書店)				
学習 目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。							
	○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。							
	○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。							
学習 方法	○(知識等の)吸収→思考→表現のサイクルを毎時間、毎単元で意識する。							
	○目の前の物事に興味を持ち、「なぜ?」と疑問を持つようにする。							
	○授業時間毎・単元毎の目標を理解し、そこに到達するための見通しをもつ。							
	○自分の理解度を客観的に評価し、予習や復習などを自主的に行う。							
学 習 評 価	評価の観点		評 価 の 観 点 の 趣 旨					
	ア	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。					
	イ	思考・判断 ・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
	ウ	主体的に学習に取り組む態度	上記ア、イの力を身に付けるにあたって、粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。(全単元この趣旨に沿って評価するため、下記「評価規準」の記載は省略)					
評価方法		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
観点		実力考査	単元考査	小テスト	発表・発言	提出物の内容等	宿題の内容等	作品制作
ア	知識・技能	○	○	○	○	○	○	○
イ	思考・判断・表現	○	○		○	○	○	○
ウ	主体的に学習に取り組む態度				○	○	○	○

学習計画（「単元」末尾の括弧内は指導領域と予定授業時数）

学期	編・章	単元 【観点】	学習内容（教材）	評価の観点			評 価 規 準	評価 方法
				ア	イ	ウ		
前期 中間	1 読書は生きる力	○「枕草子」に表れたものの見方・考え方を捉え、言語文化の現代的な価値を考えよう【読む：古典（6）】	・言語文化の現代的な価値を考える（「千年の時間が与えてくれる安堵」小川洋子） ・文章に表れたものの見方・考え方を捉える（「枕草子」清少納言）	○		○	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	②～⑥
		○「ゴール」を読んで交流し、物語の解釈の多様さを考えよう【読む：近代以降（4）】	・物語の解釈の多様さを考える（「ゴール」三崎重記）	○		○	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	②～⑥
前期 期末	2 物語は無限に展	○起承転結の構成をとらえて漢文の世界に親しもう【読む：古典（6）】	・物語の全体構成を捉える（故事二編「虎の威を借る」「朝三暮四」、説苑「景公之馬」）	○		○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	①～⑥

前期期末	限2 に 展 開 す る 無	○「羅生門」の物語の構成や展開、表現の仕方をとらえ、評価しよう【読む：近代以降（6）】	・物語の展開を把握する（「羅生門」芥川龍之介）	○	○	○	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。	①～⑥
	夏（表現） を切り抜く	○素材のよさや味わいを生かして、短歌・俳句を作ろう【書く（5）】	・短歌・俳句に表す	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	④～⑦
後期中間	3 言葉は時空を かけめぐる	○歌物語を参考に、好きな和歌を選んで物語をつくろう【読む：古典（8）】	・物語に表れた心情表現を考える（「伊勢物語」） ・作品世界を豊かに想像する（和歌十首、短歌七首）	○	○	○	・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	②～⑦
	4 人の心は万華鏡	○心情表現の多様さを味わったり、語り手を変えて物語を書きかえたりしよう【読む：近代以降（5）】	・心情表現の多様さを捉える（「オムライス」宮下奈都）	○	○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。	②～⑦
	4 人の心は万華鏡	○漢文に表れた言語表現の多様さをとらえよう【読む：古典（6）】	・言語表現の多様さを捉える（「十八史略 鶏口牛後、先從隗始」）	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	②～⑥
後期期末	冬（表現） を切り抜く	○表現効果の工夫をして随想を書こう【書く（5）】	・随筆に表す	○	○	○	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。	④～⑦
	4 人の心は万華鏡	○「平家物語」を読んで、人物像を批評しよう【読む：古典（7）】	・人物像を批評する（「平家物語 木曾の最期」）	○	○	○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	①～⑥
	海を越え る共感	○作品の成立した背景を踏まえ、物語の役割を考えよう【読む：近代以降（5）】	・物語の役割を考える（「待ち伏せ」ティム・オブライエン/村上春樹（訳））	○	○	○	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	①～⑥
	6 文学は主張する	○「論語」を読んで自分に引き付けて考え、ものの見方や考え方を深めよう【読む：古典（7）】	・ものの見方・考え方を振り返る（論語八章）	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	③～⑦

指導領域毎の時数

指導領域	書くこと	読むこと		
		古典	近代以降の文章	
授業時数の計	10時間	40時間	20時間	計70時間